

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104907		
法人名	有限会社 サン企画		
事業所名	グループホーム 祇園の里		
所在地	岡山市中区祇園41-1		
自己評価作成日	令和元年12月29日	評価結果市町村受理日	

母体が医療法人となり、ほぼ毎日の回診と24時間365日の対応で、緊急時の対応も速やかに行える体制があり安心安全に過ごして頂けます。また、本ホームの横を流れる用水には魚や白鷺がいて長閑で利便性も良いところです。建物は吹き抜けて天窓から日差しが差し込み開放感があり、その空間や居室をスタッフと協力し作った季節飾り、イベントや誕生日会の写真などを拡大して飾り、心休まる環境作りをして会話や笑顔が増える工夫をしています。毎月イベントを実施したり地域の行事にも積極的に参加し、ご利用様一人ひとりの望む生活が楽しい時間でありいい思い出が残せるように、ご家族と共に寄り添い運営をしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 2年 1月 30 日		

新体制になって新たに職員が今一度一丸となって、入居者のためにはどうすべきかを考えることが出来る環境にあることが窺えます。職員は様々なルールや規則を職員自ら作り上げていくことが出来、職員のモチベーションアップに繋がっています。そして医療法人となり医療連携がスムーズになり入居者並びに家族が安心して過ごすことが出来ています。また以前からの地域との強いつながりはそのまま継続できており、地域の一員として認められています。その結果地域の方と入居者は馴染みの関係が出来ており、生活の継続に繋がっています。

医		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	たくふう会グループの理念を基に祇園の里の特長を生かしてミーティングで共有をしている。スタッフは個々に目標を定め、半年ごとに評価シートでの自己評価をし管理者との面接を行い、常に振り返りをして実践に繋がっています	理念は経営母体が変わるときに再度職員で再考しそのまま引き継いでいます。理念を体現するために入居者に家族のように優しく接することを意識しています。また毎月ユニット毎に目標を立て実行しています。	新体制となり、新たに管理者を立て職員全員で今一度理念の意味することを再考し、自分達が何を目指し何をなすのか職員自らの言葉で共通認識を図ることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会の行事、餅つき夏祭り、公民館の催しなどに参加や散歩時の挨拶等、地域との交流がある	地域の催しに毎年参加し顔なじみの関係が出来ており、近所の方から声を掛けて頂いたり、また公民館行事での子どもとの触れ合いは貴重な体験になるなど交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加では休憩場所の確保など、配慮をして下さり、散歩時に声掛けや挨拶を頂いたり認知症の理解が浸透してきている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加し、状況報告やテーマを決めての話し合いがサービスの向上に活かされている	近隣の介護事業所と町内会長の参加もあり災害対策が検討されています。この地区は土砂による危険性が高く、行政と協力して対策について検討しています。またテーマを決めて勉強会も行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加することで地域包括支援センターの方とも日頃から協力関係を築いている	今回の経営母体の変更に際して入居者に不利益が被らない様に様々な支援と指導を頂き、サービスに支障のない様取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3カ月に1度ミーティングの場で設け、正しい知識を身につけて実践に繋がっている	職員が拘束委員会として自己研鑽を行って、日々の関わりが適切かつツールによる自己評価を行い会議で検討しています。また職員のケアも視野に入れストレスを溜めない様取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会では身体拘束が虐待となるケースや言葉使い等虐待に繋がるケースなどの注意することがある時は、ミーティングで話し合いの場・勉強の場を設け防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用を必要とする方があれば制度を活用できるように支援体制にある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面による十分な説明を心掛けている 疑問点などには迅速に電話や面会時等に直接説明し、理解・納得をして頂けるように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を気軽に話せるように日頃から利用者の様子や状態など報告・連絡を密にし関係作りに努めている。意見・要望については早急に検討し反映させています。また、敬老会にはアンケート無記名で気軽に要望など頂く機会を設けている	家族の面会は多く入居者の情報を伝えながら要望も伺っています。敬老会にはたくさんの家族の参加があり関係の構築に努めています。またケアプランの家族の要望欄には意見を頂く様努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しい運営となり色々変更があった為、戸惑いも多く受けられますが、確かなベースが出来るように職員の声をしっかり出していきたい	新体制になって管理者も変わり新たにルール作りを職員全員で行っています。また職員は小さなことでも相談しミーティングで話あって決めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	12月に給料から見直しされ改正があり、就業環境・条件の整備がされた		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティング時に勉強会の時間を設けたり、法人内での研修やイベントが設けられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設会議で他の施設での問題について意見・解決方法・気を付ける事など学ぶ機会がありサービスの質の向上に繋がっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っている事、不安な事・要望等に耳を傾け安心安全に過ごして頂ける環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、家族が不安になることがないように話しやすい環境作りに努め、困っている事、要望等を気軽に話が出来る関係性を継続できるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で、今、必要と思われる支援を見極め、今後の状態維持・向上に向け、地域資源を含めた他のサービス利用も検討し支援に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人の残存機能を見極め、有する力が発揮できるように環境づくりと出来ないことを支援しながら、ご利用者との関係づくりに努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と共にご本人を支えて頂けるよう日頃から関係作りが出来るように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方、近所の方、友人の面会や行きつけの美容院・理髪店の利用、ご家族対応での受診、盆・正月の帰省など、ご本人の馴染みの人や場所が途切れない様、ご家族の協力の下支援に努めています	馴染みの美容院に通っている人もおり正月には自宅に帰る人もいます。以前の経営母体の頃から引き続き勤めている職員もいるので入居者の情報を引き続き共有できています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合わない方がいてもスタッフが混ざって一緒にレクリエーションや作業をする事で、楽しい時間を共有出来ている。また、話をしたり介助をし助け合う様子も見られる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて連絡を取り合う関係がある。また、その関係からイベントのボランティアを引き受けてもらえ繋がりがある事の大切さを感じた		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子から職員それぞれが感じ取った事や家族からの話しなどを合わせカンファレンスで話し合い、本人の希望・把握に努めている	毎日の入居者との関わりの中で入居者自身が気づいていない事に職員が気づき、会議で情報共有をして一人ひとりの思いの把握に努めています。	介護者側からの提供ケアではなく「本人本位のケア」で安心して暮らせるホームとしてこれからも全職員で取り組んでいかれることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や利用していたサービスを下にして、これからの生活に活かせるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の一人ひとりの表情・顔色・様子を観察し、気になる所などミーティングで話し合いの場を設けそれぞれの利用者の現状を、職員同士で共有の把握が出来ている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身に変化があった時・6か月に1度の見直しを行う際、本人の思いと尊重と家族から事前に意向伺いをもとに医療面にも配慮したカンファレンスで話し合い意見を出し合って現状に即した介護計画の作成に努めています	定期的に見直しています。担当者がアセスメントを行い会議で情報共有し様々な視点でケアプランを作成しています。また家族にケアプランを説明する時に意見や希望を伺い反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化など見られたら、詳細に個人記録に記入と申し送りノートへの記入で迅速に職員間で情報を共有出来るようにし実践や介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて柔軟な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドラッグストア・スーパーへの同行、町内行事、公民館行事、ボランティアを呼んだり日々の暮らしの中でも楽しめるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を優先し、旭竜クリニックをかかりつけ医とされている方もいる。以前から利用していたかかりつけ医の受診をそのまま続けている方も居られる。	眼科等の専門医の受診は家族が同行しています。入居者の日々の情報を家族に伝えて情報共有を行っている。また日々の体調の変化があった時はその都度家族に伝えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護ステーションやすらぎの訪問があり、ご利用者の状態把握とともに、必要なら処置をしてもらったりアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院前後には相互に必要な情報を交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とよく話し合いを行い、今後の医療面のケア方針を説明し、同意のもと看取りを行っている。状態変化があれば直ぐに家族に連絡をしている。ケア方針が変われば、再度説明し同意をもらっている。	経営母体が医療法人に代わり医療体制が手厚くなり安心と、それに伴い看取り時の職員の気持ちにもゆとりが来ています。(看取りの状態から経口摂取ができるまでにADLが回復した事例があります。)	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員に急変者の基本情報既往歴などまとめたシートを準備をしている。管理者・かかりつけ医への連絡等報告システムを職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をしている。水害時の非常食も3日分準備し、3日分のメニューも決まっている。特に水害時には協力施設である、いこいの里への一時避難を職員に周知している。	運営推進会議で地域防災について話し合っています。避難訓練を現在は事業所単体で行っています。この地域は水害が危惧されるので同法人の特別養護老人ホームに避難するようになっています。	引き続き運営推進会議で地域防災の一つに位置付け行政、地域、事業所が協働して対策を実践していくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレが共同トイレではあるが、利用中はプライバシーの保護に努めている。 入浴は脱衣場にカーテンを敷き一人ひとり入浴している。	トイレ誘導や日々の関わりの中で馴れ合いになっていないか、対応や声掛けなど常に注意する様努め、不適切な行為があった時はその場で注意し、プライバシーの確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が入居者に何が食べたいか？聴いて把握するよう努めている。メニューに加えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはおおた決まっているのが、本人のペースで過ごしている。体操への参加は無理強いをせず。本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、受診の時には出来るだけいい服を準備し着るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いの出来る利用者にはじゃが芋人参の皮むき、お茶をパックに入れる作業、お盆ふきはなど手伝ってもらっている。	朝食以外は週5日はケータリングを利用して食事を一緒に食べることに重きを置いてゆったり時間をかけて食事を楽しめることに配慮しています。また外出先で食べる弁当と一緒に作り楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態の変更は入居者の状態に応じミキサー食、刻み食などを提供している。水分量は毎日チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回食後に口腔ケアを行っている。義歯の方は洗浄剤に浸け消毒。コップ、ガーグルベースも週に1度消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄を優先し、夜間のみおむつ対応をしている。	排泄パターンを理解しそのタイミングで声掛けし、トイレでの排泄を促しています。拒否があるときはその都度時間を変えて対応しています。夜間は睡眠と安全(薬の影響)を優先し適宜おしめ等を使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し、下剤を処方してもらいながら排便コントロールをしている。朝、牛乳をのんでもらったりもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望に合わせて入浴日は決めていない。2日置き、3日置きペースで入浴してもらっている。	入浴拒否をする方には時間を空けて声掛けをしたり決まった職員が対応し、入居者の気持ちに寄り添いながら、個々に沿った支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人持ち枕、毛布、タオルケット等を利用されている方もいる。リネン類は週一で交換している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情に変化が出た時は申し送りにて変化を伝えている。薬の内容も職員に周知し把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の面接にて、入居者の生活歴、趣味など把握するよう努め、生活習慣に沿った物を提供できるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人ではなくまとまって日にちを決め外出している。花見、後樂園、外食、紅葉、気候の良い時期には外気浴を積極的に行った。地域の行事にも参加させてもらっている。	なるべく気分転換を兼ねて少しでも外に出るようにしています。季節ごとの外出の際には、同法人の他事業所からワンボックスの車を借りて全員で出かけています。気候のいい時には近所の買い出しに、車いすで一緒に出掛けています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行き、本人がほしいものを選び、ご自分で支払いをしていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言われれば、家族に電話し会話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除に加え、季節のクラフトを壁に張ったり、毎月飾っている。	介護度が高い方はホールで一緒に過ごすことが多くなっています。入居者同士が気持ちよく過ごせるように気が合う人が近くになるように配慮しています。又、動線確保のために歩行器や杖の置き場所を決めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の席は決まっています。個人の座布団を使ってもらっています。隣席の方とはトラブルが起きないように配慮して席を決めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の飾りたいもの、家族との写真などご自由に飾ってもらっています。備え付けタンス、クロゼットの他に床頭台を置いている方、デスクを入れている方もいます。	各部屋には湿度温度計を設置し適切な環境に配慮しています。また居室にはイベントの写真や家族の写真など楽しいことを思い出せるように飾っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴場、トイレなど共有スペースに麻痺側に合わせた手摺の設置が求められるが、現在は工夫しながらトイレ介助、入浴介助している。		